

Y. U. 社会システム学科・3 年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

ほとんど準備はしていません。

② 語学研修 (ESL, Academic Skills Study) 期間

語学研修は勉強というよりも、アメリカ生活になれることに重点を置きました。

③ 正規科目履修期間

- ・ 履修科目の決定

私は現代社会学部で金融関係のゼミをとっているため、それに単位変換してもらえる授業を取るようにしました。あとは、日本ではとることのできない、乗馬やスキューバなどを取りました。

- ・ 授業、レポート、定期試験

授業が大変だった秋学期は TA (Teaching Assistant) を頼みました。レポートや宿題などはほとんど毎回でしたので、必死にやりました。定期試験は自分で日にちを選べるため、計画だててすることができました。なかなか前もってテスト勉強をする余裕はありませんでした。(毎日の宿題のため)

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブとしては、International Club に所属していました。International Party などへ参加しました。

⑤ 現地での住まい (語学研修期間、正規科目履修期間) について (寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など)

語学研修期間…寮はきれいで過ごしやすく、とても広かったです。設備も一通りのものはありました。毎日 Conversation の時間としてアメリカ人の人と話す時間を設けてくれたりしました。イベントとして、ホームステイの機会をあたえていただき、週末にホームステイを 2 泊 3 日でしました。正規留学…寮は古く、シャワーが少し汚かったですが、耐えられる範囲でした。ホームステイは教会の方がフレンドシップファミリーとして、受け入れてくださいました。フレンドシップファミリーはホームステイだけでなく、買い物に連れて行ってくださったり、飛行場への送迎など幅広く助けてくださいました。寮ではハロウィンパーティなどもしました。今度の生徒さんたちからはインターナショナルの生徒専用の寮になると聞きました。

⑥ 長期休暇の過ごし方

長期休暇には寮がしまってしまうことが多かったので、旅行に行っていました。旅行に行かなかった人はホームステイをしていたようです。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

リクナビ、マイナビなどの登録。また、エントリーシートを何社かに送りましたが、面接にいけなかったため、あまり意味がなかったと思います。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

アメリカ人の友達ができたと。みんなでアメリカ人の子の家に泊まりに行ったこと

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

テスト前がつらかったです。徹夜など当たり前でした。MBC は田舎のため、車がないと買い物もほとんどいけない状態だったので、暇だったことも苦痛でした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

アメリカの食事は油と塩分が多いため、胸焼けがします。味が濃いです。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点…MBC は日本語を勉強している生徒がたくさんいるため、日本に興味がある人がたくさんいました。そのため、仲良くなりやすいと思います。また自然がとてもたくさんあって、アメリカらしい町でした。

悪かった点…食事があまり美味しくありませんでした。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンはもっていかないと、生活できないと思います。宿題のエッセイ、メールなど、パソコンは必要不可欠です。他にもって行ってよかったものは、パソコンの説明書&保証書です。結構たくさんの方がパソコンを壊したり、異常がでたりしたのであるほうが便利です。

③ 語学力の向上等、留学の成果

留学の成果は、語学力も得ることが出来ましたが、なによりも留学の経験が私にとって一番の成果だといえます。アメリカで日本とは全くちがう生活や人々と過ごして、いろんな楽しかったりつらかった経験を通して、私の自信につながりました。これからはもっと自信をもつことができると思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学はとてもいい経験になります。語学力だけを目標にして、アメリカで勉強ばかりしているのはもったいないとおもいます。アメリカでしかできないことを自分からどんどんして、留学生活を楽しく、忘れられないものにしてください。

Y. T. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してから出発までの期間は特にこれといって勉強はしませんでした。一年間初めての一人暮らしが海外ということもあってやっぱり少しだけ不安もあったので、家族や友達という時間を大切にしました。準備期間といって構える必要もないけど、心の準備みたいなものは必要だったと思うし、いい気持ちで出発するためにできることをこの間にしたらいいと思います。

② 語学研修 (ESL, Academic Skills Study) 期間

この期間は正規の授業に慣れるためというよりはアメリカ人の友達や先生との付き合い方に慣れるためという感じでした。思ったより英語がしゃべれなくて、次9月に正規の大学に行ったらもっと自分のここを直そうとか、そういう風に自分を見直せるいい機会でした。

③ 正規科目履修期間

- ・ 履修科目の決定

私の場合は去年や一昨年に Mary Baldwin College に行った人達にいろいろ話を聞いていたので、その人達のアドバイスを参考にしたのと、あとは自分の興味あることを勉強するのが一番だと思います。

- ・ 授業、レポート、定期試験

大変でしたが、チューターなどの友達が助けてくれたり、本当にいろんな人達が助けてくれたおかげで何とかできたと思います。勉強はいっぱいしないといけないけど、終わったあとはすごく頑張った感があります！

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

授業の一環としてボランティアで保育園に2ヶ月ほど行って子供たちと遊んだりしました。いい経験になりました。

⑤ 現地での住まい (語学研修期間、正規科目履修期間) について (寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など)

寮はいいルームメイトにも周りの友達にも恵まれて本当に楽しくて家族みたいでした。Mary の寮は Chatam に比べたらかわいいとは言い切れないけど、やっぱり大事なのはルームメイトとの相性と、どれだけ自分で毎日を過ごしやすく楽しくするかだと思います。

⑥ 長期休暇の過ごし方

旅行はお金がかかります！！でも楽しかったし、いい思い出だし、いっぱいいろんなところに行くといいと思います。

- ⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み
なにもませんでした。

Ⅱ. 留学の感想

- ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学で一番楽しかったことはもちろん旅行中で見た色んなものだけど、一番の思い出は、友達です。一緒に行った同女の日本人の友達も含めて、本当に向こうでいい友達に会えて、良かったです。

- ② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

つらかったことは、自分の英語力が十分ではなくてたくさん悔しい思いをしたことです。でもそれも、いい経験だったと思います。

- ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

日本人は悪く言ったら気にしすぎで、よく言ったらなんて上品で気遣いがよくできるんだろうと思いました(笑)。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

- ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

Mary はいい先生が多いと思います。悪かった点は、勉強でどうしてもたまってしまうストレスの発散ができにくいという環境です。私はもともと田舎が好きだったんですが、やっぱりリフレッシュするのが難しいと感じるときもありました。

- ② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは絶対持っていくべきです。あとは日本のお土産を持っていくとみんな喜ばれると思います。

- ③ 語学力の向上等、留学の成果

向上してることを本当に祈ります！！

- ④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

英語が好きで楽しく毎日を過ごせるようにがんばれる人なら大丈夫です。なんとかなるものです！！一人と思っても実は一人じゃないし、だいじょうぶです。がんばってね！

C. T. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

英語の勉強はあまりしていませんでしたが、時々会話の練習をしていました。留学先ではアルバイトができないため、アルバイトに多くの時間を割き、なるべくお金を貯めました。出発までに大きい休みとなるので、資格の勉強などをしておいてもよかったかなと、少し後悔しています。荷物については、新しい物を買うのは極力避け、古いものを持って行くようにしました。古くなったものは向こうで教会に寄付してきました。

② 語学研修 (ESL, Academic Skills Study) 期間

語学研修期間はあまり勉強もきつなく、自由時間が多くあり、アメリカ生活に慣れるいい準備期間となりました。この期間中に5日間ほどの休みがあり、私はカナダに行きました。皆さんも早めに旅行の計画を立てるといいでしょう。授業以外にもアクティビティが多くあり、会話の練習をしたり、博物館へ行ったりと、とても楽しい2ヶ月間でした。留学される方で英文科でない方の中には、英語力に不安を抱くかたがいるかと思いますが、この研修でしっかりと基礎を教えてくださいますので、安心してください。時間があるので、何か本(英会話など)を持っていき、それを勉強するのもいいかもしれません。

③ 正規科目履修期間

- ・ 履修科目の決定

MBCの先生が語学研修先まで会いに来てくれて、履修科目の相談会をしました。単位の読み替えについてはあまり気にせず、自分のとりたい科目を取りました。

- ・ 授業、レポート、定期試験

量は多いですが、気合を入れて勉強すれば、何とかなります。勉強に追われるのもいい思い出です。レポート、授業の基礎は語学研修で培うことができますと思います。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

特に参加していませんでしたが、授業の一環として、非営利団体の幼稚園へボランティアに行きました。学外に出ることでリフレッシュもできますし、社会に貢献する喜びも感じることができました。また、学校とは違うコミュニティーに入ることで、新しい考えを得ることができます。皆さんもぜひチャレンジしてください。

⑤ 現地での住まい (語学研修期間、正規科目履修期間) について (寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など)

基本的には寮でした。どの寮、部屋に住むかについては、すでに決定されていました。もしルームメイトとトラブルがあった場合は、変更できます。ホームステイの経験もできます。寮では様々なパーティーがあり、とても楽しめます。ハロウィンパーティーは、コスチュームの本格さや、

ゲームの内容など、さすがアメリカ！といったものでした。ピザパーティーも多くあったと思います。寮のミーティングなども含めて、寮内で集まるが多かったように思います。

⑥ 長期休暇の過ごし方

冬休みの1ヶ月を使って、電車でアメリカ大陸横断をしました。語学面、体力面、精神面も鍛えられたと思います。この1ヶ月は、留学の思い出を左右すると思います。ぜひ、アメリカでしか体験できないことを自ら進んでやってください。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

就職サイトへ登録し、情報収集に努めました。3月になるとエントリーシートを日本へ郵送したりしましたが、その際に印鑑や写真が必要であったことがあります。いい企業を探し当てるか分かりません。日本から用意して持って行っておくといいと思います。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

日々単調で辛い時もありましたが、舞台を見に行ったり、友達と出前を頼んで夕食会をしたり、ホストファミリーと出かけたり…と、土日は何かと忙しかったです。一番楽しかったのは、Junior Dadsというダンスパーティーでした。みんなでパーティードレスを着て、立食パーティー、ダンスパーティーをしました。このような経験は日本ではなかなかできないと思います。アメリカのナイトクラブには、何曲か決まったダンスがあり、それを覚えるのに必死でした。みんなと一緒に同じ曲を歌って、同じ曲で踊って、とても楽しい一日でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

ルームメイトとケンカしたことです。初めは泣いてしまいましたが、その後話し合いの末に解決しました。100%向こうに落ち度がありましたが、言いたいことがすぐに言えないというハンデと、相手を理解させることができないことにストレスを感じました。様々な人を巻き込んだ騒動でしたが、今では一つの笑い話です。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

助け合いの精神が根強いと感じました。田舎に行けばいくほど、その風潮が強いのは日本と一緒にかなと思いました。行く先行く先で声を掛けてくれて助けてくれる人が多く、とてもありがたいと思った反面、初対面なのにオープンすぎて失礼な人もいて、困りました。次第に、人との接し方にも慣れていき、通り過ぎる人との会話を楽しみました。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

よかった点は、学校の規模が小さく、友達ができやすい環境であること。先生の留学生に対する配慮が大きいこと。悪かった点は、日本人が多く、距離感に戸惑ったこと。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコン、体温計、お気に入りの CD など

③ 語学力の向上等、留学の成果

秋学期より春学期の授業のほうが断然楽だったので、語学力は伸びたと思います。発音が良くなったと褒められました。今まで気がつかなかった自分の短所、長所や意外な性格が発見できました。タフになったとも思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

迷っているなら、とりあえず動いて見てください。自分で動かないと何も始まりません。また、留学に対して不安もあるかとおもいますが、あまり思いつめずに、大きく構えて「やってやるぞ！」という気持ちで挑んでください。

K. N. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学に関する手続きが大変でした。大学からの健康診断フォームが遅く届き、いくつか受けられなかった予防接種がありました。人によって必要な予防接種が異なるので、早めに受けたほうがいいと思います。自分のTOEFLの点数より少し高いレベルの、英文の小説を読んだりしていました。後は特に何もしてませんでした。家族の写真やペットの写真をPCに入れてました。

② 語学研修 (ESL, Academic Skills Study) 期間

今回は同志社女子大学から8人と、京都女子大学から1人で、9人でのChatham語学研修となりました。この期間はChatham大学生は夏休み期間なので、ほぼネイティブの生徒はいません。寮のルームメイトも同志社女子大学の友達でした。この期間では、どこかに連れて行ってくれたり、困ったことがあった時に相談にのってくれたりしてくれた2人の同年代のアメリカ人の女の子がいました。優しく、とても親しみやすかったです。この2人はクラスの後でConversation Groupを設けてくれて、これが私にとってコミュニケーション力がよく伸びた時間だと思いました。クラスは優しいので安心してください。宿題もある程度ですが難しくはありませんでした。フレキシブルで、生徒の意見を授業に取り入れてもらえます。Speaking、Listening、Reading、Writingのクラスがあり、どの授業も楽しく受けることができました。ただ、私が感じたことは、ここでコミュニケーションの積極性を伸ばしていれば、次の大学へいっても、自信を持って話していけるということです。

③ 正規科目履修期間

・ 履修科目の決定

語学研修期間中に、メアリーからレジストレーションの先生が来てくださって、お勧めの授業を色々教えていただきました。後は自分の必要な単位数と科目を成績証明書などで見合わせ、前年度の留学生が取っていたクラスなどを参考に決めました。秋学期(前学期)は何もわからず、勧められた教科と、自分の興味があった生物学、コミュニケーションなどをとりました。春学期は先生の傾向や、それが自分にあっているのか合っていないのかが分かってきたので、自由にとっていました。科目を決定するときはアドバイザーや友達が相談にのってくれるので、大丈夫です。

・ 授業、レポート、定期試験

授業は日本のスタイルと全く違います。生徒はみんな積極的で、教授と生徒の距離が近いです。質問や意見は授業中であれ、思いついたら手をあげて授業ストップしてみんなで討議します。生徒が主体となって進んでいくクラスです。留学生に気をとめてくれる先生とそうでない先

生とがいます。レポートは日本の大学より厳しくしっかりやらなければいい点数はもらえません。毎週3個はエッセイの課題がありました。リーディングの量はありえませんが、必死でした。定期試験は、試験期間中にある教科とそうでないものがあります。定期試験期間前、最中はストレスがたまります。工夫をして計画的に勉強してください。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブはCOSMOSというインターナショナルクラブに所属していました。ベイキングセールや、インターナショナルフェスティバルなどとても楽しいイベントがあります。ボランティアは、前学期に取っていたクラス(Community and Service Learning)で、体験させてもらいました。老人ホームで奉仕活動をしました。ここでもコミュニケーション力がつきました。

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

語学研修期間はChathamの留学生用の寮にいました。きれいで、快適にすごせました。ホームステイは週末を利用した2泊3日で、いろいろな場所に連れて行ってもらいました。メアリーは自動的に寮です。この大学には留学生専用の寮がなく、初めはルームメイトにアメリカ人の生徒があてられています。私の場合、メディカルリーズンでルームメイトが一人部屋に移ったので前学期の前半は一人でした。でも、途中から大学で仲良くなったアメリカ人の友達が私の部屋に移動してきて、一緒に住むようになりました。ここでは、サポートファミリーが近くの教会からボランティアで一人につき人家割当てられました。夕食に招待してくれたり、車をオフアードしてくれたり、一緒に楽しく過ごしました。

⑥ 長期休暇の過ごし方

Fall Break中はワシントンDCに住むアメリカ人の友達の家遊びに行き、市内観光。Thanksgiving Breakにはルームメイトの住むボストンでゆっくり過ごしました。1ヶ月の長期冬休みは、同志社女子大学の友達とアメリカをアムトラックで一周しました。NYで語学期間中を共に過ごした8人が全員集まり、ニューイヤーをタイムズスクエアで祝いました。春休みには友達とペルーへ1週間ほど英語のツアー。アメリカから行くので安く済みました。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

全くといって良いほど何もしていませんでした。就職情報サイトに登録し、エントリーをいくつかただけでした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ルームメイトとの会話や笑い、毎日のアメリカ人友達とのチャットがすごく嬉しかったです。自分の英語が通じていると、ふっと実感する時があります。その瞬間がとても嬉しかったです。長期期間の旅行もたのしかったし、それを新聞社のレポーターが記事にしてくれたのもとても

いい思い出になりました。正規履修期間の方が思い出に強く残っていますが、語学研修期間中もフィールドトリップなど、楽しいイベントはいくつもありました。最も思い出に残っていることは、日本人主催のパーティーです。お鍋や着物の試着など、アメリカ人に大人気でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

前期のコミュニケーションのグループプロジェクトで、アメリカ人のメンバーと衝突して大喧嘩してしまいました。泣いて泣いて、日本人の友達に相談して、解決策一緒に考えてもらったり、教授に相談しに行ったりしていました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

時間のパーセプションの違い。ミーティングに遅刻はあたりまです。これにも慣れてきてしまいます。個人主義社会も実感しました。一緒にゴールに向かっていくのではなく、たとえ最終目的が一緒であっても、その過程は個々で行くことが多かったのです。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

生徒が留学生にとっても優しく理解があり、みんなノビノビとしていて、いい雰囲気の大学です。サポート体制もしっかりしていました。悪かった点は、今年のインターナショナルディレクターが新任だったため、要領がわからなかったみたいで、行き違いやすれ違いが多かったように感じました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコン持参でした。これは必須です。デジカメ、成績表、ビザ申請時の書類一式、日本のお土産、クレジットカード、JTBのグローバルキャッシュカード、スカイプなどです。

③ 語学力の向上等、留学の成果

語学力は格段にあがります。英語の4つの基本スキルが自分でも分かるほどレベルアップします。でも、これは個人のモチベーションに比例していると感じました。自立できたかどうかはわかりませんが、自己解決力はつきます。問題に面したときに自分の住み慣れない環境で、第二言語でどのように回避するか。これはすごく大きな壁になりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

チャレンジ精神を旺盛に、何事にもためらわず突き進んでいきましょう！第二言語での環境なので失敗するのは当たり前です。失敗を怖がらずにやってみましょう！「失敗とはやってみないことである。」私の好きな言葉です。モチベーションは高く持ち、自分ではできるんだと、セルフコンフィデンスを持ちましょう。